

令和6年度

# 入学試験 国語問題

## 注

- 解答はすべて解答用紙に記入すること。
- 問題用紙は持ち出さないこと。
- 字数制限のあるものは、原則として句読点、記号も一字に数えます（指示のあるものは除く）。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「痛税感を和らげる」「スピード感をもって進めていく」

① 「〇〇感」という言葉が、いつから猛威を振るうようになったのだろう。

a、二〇一九年に行われた消費税率の引き上げに絡んで、政府やマスメディア、経済団体などから、<sup>②</sup>「痛税感を和らげる」という類いの言い回しが盛んに発信された。これに対して、なぜ「感」なのかと憤った人も多いだろう。これではまるで、増税による負担の増加が事実ではなく、個人の主観の問題に過ぎないかのようにも聞こえる。

もちろん、税率の上<sup>A</sup>シヨウや、新たな種類の税の導入といったものが、人々が納税を負担に感じる度合いを過度に高めている、といった状況はありうる。ただ、そうした場合にも、そのような「痛税感」は本来、納税による恩恵や納税の必要性について得心がいく政サク<sup>B</sup>が行われることで、また、そうした政サクが十分に納税者に説明され、理解されることで、はじめて和らぐべきものだ。逆に、一時的な減税や期間限定のポイント<sup>C</sup>還元、価格の税込み表示の義務化<sup>④</sup>といった小手先の手段ばかりでは、納税者の負担増を「感じ方」の問題に矮小化<sup>D</sup>しているというヒ判<sup>D</sup>が向けられるのは避けられないだろう。

b、「スピード感をもって進めていく」という言い回しも、最近<sup>E</sup>は各所でよく聞かれるものであり、もはや常套句と化している。しかし、<sup>⑤</sup>これもなぜ「感」なのだろうか。なぜ **X** に「素早く」「迅速に」と言わないのだろうか。

<sup>※しんそく</sup> 肃々と迅速に実行するだけではなく、その気持ちや姿勢を意識して周囲と共有することも大事なのだ、といったガ<sup>E</sup>ン意があるのかもしれない。 **c** やはり、「迅速に進める」と明確には言い切らない、責任逃れの姿勢が見え隠れする。あくまでも「スピード感」なのだから、実際には迅速に進められていなくとも嘘は言っていない、というわけだ。(へー)

や<sup>⑥</sup>つてる感を演出する同様の言い回しとしては、「警戒感をもってあたる」という表現も多用されている。そう言うのであれば、「警戒する」ということに該当する行動を具体的に何もせずとも、自分の言葉に責任をもたずに済む。 **d**、これまでも通<sup>⑦</sup>りのことでも警戒感を込めて行ったのだと言い張れる以上、嘘を言ったことにはならないということだ。

## 明言を避け、責任を回避する姿勢

このように、どこか明言を避けてぼやかす姿勢、言質※けんちを与えず責任を回避する姿勢こそが、「○○感」という言葉がいま氾濫はんらんを起こしている大きな要因だろう。

実際、いま日常のさまざまな場面で、「そこはよくなった感あるよね」とか、「あれは無理してる感がする」といった類いの言い回しがよく耳に入ってくる。「よくなった」とは言い切らず、「無理してる」とは断言しない、曖昧あいまいな言い方だ。(2)

そこには、正確で慎重な判断を行おうとする姿勢や、他者を傷つけまいとする配慮が働いている、などが見なすこともできる。とはいえ、そうした「Y」も、人々が自分の言葉に対して責任を取らず、実態を有耶無耶うやむやにしてしまう傾向があまりに蔓延※まんえんしてしまえば、その値打ちを失うだろう。

## 「抜け感」と「いき」の共通点

前節で見たように、「○○感」というのは、責任逃れのために多用されがちな言葉だ。ただし、なかには、そうした否定的な面だけでは尽くされない奥行きをもち、独特の趣おもむきを備えた言葉も見出すことができる。

たとえば、ファッションの分野などでいま頻出している言葉に、「抜け感」というものがある。かつちりときめ過ぎず、部分的にわざと隙すきを——つまり、**抜け**を——をつくることで生み出される、堅苦※やしくもなく野暮※ぼでもない雰囲気のことだ。シックでスタイリッシュな服に対してカジジュアルな靴くつや小物などを合わせたり、ボタンを少し外したり、襟足えりあしや足首などを少し見せたり、といった具合である。(3)

〈中略〉

## 問題を誤魔化すニュアンスも

「〇〇感」という言葉に関しては、ほかに、「温度感」なる言葉も興味深い。たとえば、「彼はこの差別問題の温度感が分かっていない」という風に言われる場合には、おおよそ次のようなニュアンスが含まれるだろう。彼は当該の差別が問題であることを、少なくとも頭では理解しており、問題の解決を求める声に賛意を示したりもするだろう。しかし、いま問題がどれほど切迫しているか、当事者の間でどれほど意識が高まっているか、差別に遭っている人が実際にどれほど強く怒り、苦しんでいるか、といったことを、いわば肌身感じて理解してはいない。(4)

つまり、「温度感」という言葉は、ある物事に関する気運や意識の高まり、深刻さや真剣さの程度といったものを指し、特に、当該の物事に向き合う人がそれらをどれだけ感じ取れているかを焦点化する言葉として、しばしば用いられていると言える。微妙なのは、「規模感」という言葉だ。企業や官庁などで現在この言葉がよく行き交っているが、単に「規模」と言えばよいものを、<sup>⑦</sup>なんとなく曖昧さに逃げるために「感」をつけているケースが多い。

ただし、たとえば「規模感を掴む」といった表現には、経験や勘に基づく直観的な把握を表すような、独特のニュアンスが含まれていることもある。それこそ、飲み会の「規模感を掴む」ことに長けた幹事は、事前にいちいち詳しいアンケートをとったりしなくとも、次の飲み会におおよそどれくらいの人数が集まるか、どのような会場を予約すべきか、会費をどれほど徴収すべきかといった塩梅を、ほどよいところに設定できる。どうして分かるのかを明確に根拠づけて説明することはできないが、それでも、手練れの幹事には飲み会の「規模感」が何となく掴めるのである。(5)

総じて、「〇〇感」とは、いわく言いがたい感覚やセンスなどに関係する言葉であり、そして、そうであるがゆえに、ことごとくを不明瞭にし、問題を誤魔化すためにも利用される。

たとえば、先の「温度感」も、ビジネスの現場で「クライアントの温度感が高い」とか、「うちの部署の温度感は低い」などと言われる際には、<sup>⑧</sup>言葉や数値には表れない重要な感覚的・感情的要素に注目しているケースもあるだろう。しかし他のケースでは、あり合わせの便利な言葉として、特に考えなしに用いられていることも多いだろう。本来であれば、なぜクライアント

トが乗り気になっているのか、なぜうちの部署の気運が停滞しているのかについて、しっかりと分析を行い、その判断を言葉にすることが重要であるのに、とりあえず「感じ」や「気持ち」の問題にして安易に片づけてしまう、という具合だ。

<sup>9</sup>言葉が悪いのではない。自分の言葉に責任を負わず、曖昧な言葉の陰に隠れることが問題なのである。

(古田徹也『いつもの言葉を哲学する』)

※ 得心がいく…心から納得すること。

矮小化…実態よりも小さく見せること。

常套句…似た状況で決まって持ち出される言い回し。

肃々と…静かでおごそかな様子。

言質…後の証拠となることば。

蔓延…好ましくないものが、はびこり広がること。

野暮…洗練されていない。

塩梅…ぐあい、様子。

手練れ…腕まえが優れていること。

問一 傍線部A～Eのカタカナを漢字で表記したとき、同じ漢字を使うものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 上シヨウ

- ア 説明をシヨウ略する。  
イ 大空を飛シヨウする。  
ウ 線対シヨウな図形。  
エ シヨウ段試験を受ける。

B 政サク

- ア サク略をめぐらせる。  
イ サク年度の資料を確認する。  
ウ 時代サク誤な考え方。  
エ サク戦を練る。

C カン元

- ア 無得点でカン敗した。  
イ 優勝旗を返カンする。  
ウ カン境問題に取り組む。  
エ カン易な包装。

D ヒ判

- ア 自分の罪をヒ認する。  
イ 兄とヒ較する。  
ウ 通商条約をヒ准する。  
エ ヒ常に悲しい。

E ガン意

- ア 念ガンがかなう。  
イ 令和ガン年。  
ウ 砲ガン投げ。  
エ 鉄分を多くガン有する。

問二 a d に入る適当な語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号は二度以上使用しないこと。)

- ア しかし
- イ つまり
- ウ たとえば
- エ なぜなら
- オ また

問三 次の一文は本文中の〈1〉〈5〉のどの箇所に入れるのが適当ですか。数字で答えなさい。

彼にとってこの問題は、どこか遠い、他人事のようなものに留まっている、と。

問四 X Y に入る語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- X ア シンプル
- イ サステナブル
- ウ イニシアティブ
- エ ポジティブ
- Y ア 美德
- イ 悪意
- ウ 誘惑
- エ 偽善

問五 傍線部①「『〇〇感』という言葉が、いつから猛威を振るうようになったのだろう」について、この現状の要因として筆者が挙げているものを本文中から二つ、それぞれ十五字で抜き出して答えなさい。

問六 傍線部②「痛税感を和らげる」についてまとめた次の文の空欄に入る適当な語句を、本文中から指定された字数で抜き出して答えなさい。

消費税率引き上げに絡んで、政府やマスメディアなどから発信された言葉であり、納税することを得る①2字や納税の必要性が②3字にとつてわかりにくく、一時的な減税などといった③6字によって、②の負担増加を個人の「感じ方」の問題に置き換えるように聞こえる言い回しとなっている。

問七 傍線部③「主観」・④「義務」の対義語を漢字で答えなさい。

問八 傍線部⑤「これ」とは何を指していますか。本文中から抜き出して答えなさい。

問九 傍線部⑥「しばしば」の品詞名を漢字で答えなさい。

問十 傍線部⑦「なんとなく曖昧さに逃げるために『感』をつけているケース」として適当でないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 無理してる感      イ スピード感      ウ 警戒感      エ 抜け感

問十一 傍線部⑧「言葉や数値には表れない重要な感覚的・感情的要素」を具体的に説明した箇所を本文中から十四字で抜き出して答えなさい。



問十二 傍線部⑨「言葉が悪いのではない」と筆者が言う理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ことがらをあやふやにするために言葉を使う人に問題があるから。

イ 言葉を作った社会の風潮に問題があるから。

ウ 聞いている人が言葉のネガティブな面をとらえてしまっていることに問題があるから。

エ 便利な言葉だと何も考えないで使う人が増えていることに問題があるから。

問十三 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「〇〇感」という言葉は政府やマスメディア、経済団体などで使用されることが多く、日常会話の中ではあまり聞かない。

イ 「抜け感」という言葉は独特の趣を備えられており、特にビジネスの分野で頻出している。

ウ 「規模感を掴むことができる」と言う飲み会の幹事は、その場しのぎにあり合わせの言葉を使っていることが多い。

エ 「警戒する」を「警戒感をもってあたる」と表現することで、自分の言葉に責任をもたずに済むことがよく行われている。

【二】 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

七夕祭る X なまめかしけれ。やうやう夜寒になるほど、雁鳴きてくるころ、萩の下葉色づくほど、早稲田刈り干すなど、とり集めたる事は Y のみぞ多かる。また、野分の朝 X をかしけれ。

言ひつづくれば、皆源氏物語・枕草子などにことふりにたれど、同じ事、また今さらに言はじともあらず。おほしき事言はぬは腹ふくるるわざなれば、筆にまかせつつ、あぢきなきすさびにて、かつ破り捨つべきものなれば、人の見るべきにもあらず。

(兼好法師『徒然草』)

※ 早稲田：早く成熟する稲を植えた田。

ことふりにたれど：言い古されてしまっているが。  
すさび：なぐさめ。

問一 二重傍線部A「やうやう」・B「あぢきなき」および、次の1～4の歴史的仮名遣いの読み方を現代仮名遣いに改めなさい。(傍線部分をすべて書くこと)

- 1 かなはじ
- 2 あやしう
- 3 くれなる
- 4 すゑ

問二 X に入る語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- アの　　イこそ　　ウ　　やは　　エが

問三 Y に入る季節を漢字一字で答えなさい。

問四 傍線部①「野分」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 台風      イ 梅雨      ウ 雪      エ 雷

問五 傍線部②「源氏物語・枕草子」の作者をそれぞれ漢字で答えなさい。

問六 傍線部③「同じ事、また今さらに言はじともあらず」の理由を解答欄に合うように、本文中から十五字程度で抜き出しなさい。

問七 傍線部④「人の見るべきにもあらず」について、

I 現代語訳として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人が見るはずのものではない  
イ 人が当然見るべきである  
ウ 人が見えてはいけない  
エ 人が見ようとはしない

II 何を「人の見るべきにもあらず」と言っていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 七夕      イ 源氏物語・枕草子      ウ 筆      エ この文章

問八 この作品は鎌倉時代に成立しました。同じ時代に成立した作品を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 『方丈記』

イ 『おくのほそ道』

ウ 『竹取物語』

エ 『万葉集』

〔次頁に問題が続きます〕

【三】 次の問いに答えなさい。

問一 次のことわざと似た意味のことわざを後のア～エの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

1 豚に真珠

- ア 鷹とびが鷹を生む      イ 転ばぬ先の杖      ウ 猫に小判      エ 鬼に金棒

2 月とすっぽん

- ア ぬれ手で粟あわ      イ ひょうたんから駒こま      ウ 餅もちは餅屋      エ ちようちんにつり鐘

3 弘法も筆の誤り

- ア かつばの川流れ      イ 灯台もと暗し      ウ 取らぬ狸たぬきの皮算用      エ 二階から目薬

4 のれんに腕押し

- ア やぶから棒      イ ぬかに釘くぎ      ウ 雨降つて地固まる      エ 千里の道も一歩から

5 医者の不養生

- ア あぶはち取らず      イ 亀の甲より年の功      ウ 紺屋こうやの白袴はかま      エ 焼け石に水

問二 次の四字熟語の  にあてはまる漢字を後のア～エの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。また、その四字熟語の意味として最も適当なものを後のA～Gの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。(意味については同じ記号を二度以上用いないこと。)

1 意味深

ア 帳      イ 長      ウ 庁      エ 重

2 我  引水

ア 伝      イ 田      ウ 電      エ 殿

3 大  小異

ア 同      イ 銅      ウ 堂      エ 動

4 千  一遇

ア 在      イ 載      ウ 剂      エ 材

5 優柔不

ア 段      イ 団      ウ 談      エ 断

- A 本節にかかわりのないつまらないことから。
- B めったにないチャンス。
- C 表現に含みがあること。
- D たいして違いがないこと。
- E ぐずぐずしていつまでも決定が下せないこと。
- F もつてのほかであること。
- G 自分の都合のいいように考えたり、行動したりする。